

平成 30 年 6 月 6 日
第 12 回（仮称）村松地区周辺
地域活性化計画策定検討委員会

（仮称）村松地区周辺地域活性化計画 （イメージ）

○写真やイメージ図，用語の注釈など，今後追記や差替えを予定し，または検討している項目もあり，引き続き，（仮称）村松地区周辺地域活性化計画策定検討委員会や庁内会議における議論を踏まえ，整理していきます。

第 11 回委員会中間報告（案）から追加した項目

- 1 頁 計画の策定にあたって（計画策定の目的を文章化，計画期間を 10 年間と提示）
- 2 頁 村松地区周辺地域の主な概要（計画対象エリアの捉え方，各エリアの主な地域資源）
- 7～14 頁 パース図，現状と課題
- 15 頁 計画の推進にあたって
- 16 頁～20 頁 資料編

平成 30 年〇月
東 海 村

目 次

1	計画の策定にあたって
	（１）計画策定の背景・目的
	（２）計画の位置付け
	（３）計画期間
2	村松地区周辺地域の主な概要
	（１）村松地区周辺地域を構成する４つのエリア
	（２）各エリアの主な地域資源
3	目標とする村松地区周辺地域の将来像
4	村松地区周辺地域の活性化に向けた基本的な姿勢
	（１）地域資源を最大限に生かす
	（２）地域住民をはじめとした村民の郷土愛を育む
	（３）担い手となる人材を育てる
	（４）エリアなどを超えて連携する
	（５）情報を戦略的に発信する
	（６）目標の実現に向け、できることから始めていく
5	施策の体系
6	施策の展開
	（１）大神宮・虚空蔵堂エリア
	（２）阿漕ヶ浦公園エリア
	（３）細浦青畝エリア
	（４）幼保跡地エリア
7	計画の推進にあたって
	（１）計画の推進体制
	（２）計画の進行管理
8	資料編

1 計画の策定にあたって

(1) 計画策定の背景・目的

日本の総人口は、2008年（平成20年）の12,808万人をピークに減少に転じ、国立社会保障・人口問題研究所（社人研）が公表した「日本の将来推計人口（平成29年推計）」（出生中位（死亡中位）推計）によれば、2040年には11,091万人まで、2060年には9,284万人まで減少すると推計されています。

本村においても、社人研による「日本の地域別将来推計人口（平成25年3月推計）」において、2010年（平成22年）に37,438人であった総人口は、2040年に38,460人まで増加すると推計されているものの、2015年（平成27年）の国勢調査結果は37,713人となり、社人研による2015年推計値38,582人を下回るなど、厳しい状況に直面しています。

このような状況において、地方や各地域には、人口の減少を前提としながらも、歴史や自然、伝統、文化など地域固有の資源を生かしながら質の高い暮らしを営むことができる「持続可能な地域づくり」を進めていくことが求められています。

本計画の対象となる村松地区周辺地域においても、当該地域を主な居住区域とする宿区の人口の減少率や75歳以上の人口割合は、村内の他の行政区と比較しても高く、今後、急速に地域の賑わいが失われていくおそれがあります。

一方、村松地区周辺地域は、大神宮や虚空蔵堂、真崎古墳群や真崎城跡をはじめとした歴史的な資源や、八間道路、細浦、天神山、押延溜などの自然や自然環境、最先端の原子力科学研究施設である大強度陽子加速器（J-PARC）、阿漕ヶ浦公園など、豊富な地域資源に溢れており、これらの地域資源を生かした交流人口の拡大や、村民の地域に対する愛着や誇りなど郷土愛の醸成や高揚に向け、大きなポテンシャルを有している地域でもあります。

また、2019年の「いきいき茨城ゆめ国体2019」の開催に合わせ、阿漕ヶ浦公園内のホッケー場や園路などの改修が進むほか、一般国道245号線の村内区間の拡幅工事も進捗するなど、村松地区周辺地域においては、大規模なハード整備も進んでいます。

これらの状況を踏まえ、今、村松地区周辺地域は、そのポテンシャルを開花させる大きなチャンスを迎えていると捉え、村松地区周辺地域の地域資源を生かした交流人口の拡大による賑わいの創出と、地域住民をはじめとした村民の郷土愛の醸成や高揚を推進していくため、（仮称）村松地区周辺地域活性化計画を策定します。

(2) 計画の位置付け

本計画は、村松地区周辺地域の活性化に向け、目標とする将来像や活性化に取り組む上での基本的な姿勢、向こう10年間に於いて村松地区周辺地域の各エリアにおいて取り組む施策の方向性や具体的な取組内容などを定めるものです。

なお、本計画は、東海村第5次総合計画後期基本計画、東海村まち・ひと・しごと創生総合戦略、東海村都市計画マスタープラン、東海村教育振興基本計画後期基本計画、東海村文化財保護・活用計画、第2次東海村環境基本計画、東海村生物多様性地域戦略などの各種行政計画との整合を図るものです。

(3) 計画期間

本計画の計画期間は、2019年度から2028年度までの10年間とします。


ただし、施策の効果や社会情勢などを踏まえ、適宜、見直すことができるものとします。

なお、一部の取組みについては、計画期間の開始前より先行して取り組みます。

2 村松地区周辺地域の主な概要

(1) 村松地区周辺地域を構成する4つのエリア

村松地区周辺地域は、「大神宮・虚空蔵堂エリア」、「阿漕ヶ浦公園エリア」、「細浦青畝エリア」及び「幼保跡地エリア」の4つのエリアをもって構成します。



計画対象エリアの図を挿入予定

(2) 各エリアの主な地域資源

① 大神宮・虚空蔵堂エリア

大神宮・虚空蔵堂エリアの主な地域資源について、写真や解説文の挿入を検討

② 阿漕ヶ浦公園エリア

阿漕ヶ浦公園エリアの主な地域資源について、写真や解説文の挿入を検討

③ 細浦青畝エリア

細浦青畝エリアの主な地域資源について、写真や解説文の挿入を検討

④ 幼保跡地エリア

細浦青畝エリアの主な地域資源について、写真や解説文の挿入を検討

3 目標とする村松地区周辺地域の将来像

目標とする村松地区周辺地域の将来像を次のように定めます。

**「行ってみたい、住んでみたい、働いてみたい“大空の郷”村松地区」
「温故知新『自然』『科学』『歴史』を体験できる・楽しめる・つながる村松地区」**

※第3回委員会（H29.2.10）で取りまとめた将来像（案）であり、第4回委員会以降の議論を踏まえ、最終的には1つにまとめる予定です。

上記の将来像に込められた想いを簡潔に記載予定

4 村松地区周辺地域の活性化に向けた基本的な姿勢

村松地区周辺地域の活性化に向けた基本的な姿勢として、次の6項目を掲げます。

(1) 地域資源を最大限に生かす

村松地区周辺地域は、前述のとおり、大神宮や虚空蔵堂、真崎古墳群や真崎城跡をはじめとした歴史的な資源や、八間道路、細浦、天神山、押延溜などの自然や自然景観、最先端の原子力科学研究施設である大強度陽子加速器（J-PARC）、阿漕ヶ浦公園など、豊富な地域資源に溢れています。

これらの地域資源は、地域で暮らす住民の方々には「当たり前の日常」ですが、当たり前の日常であるがゆえにその魅力を十分に理解していない場合や、地域の外の方には「魅力」として映る場合があります。

村松地区周辺地域の活性化を推進するに当たっては、地域資源を最大限に生かすことを基本として取り組むこととします。

(2) 地域住民をはじめとした村民の郷土愛を育む

村松地区周辺地域は、豊富な地域資源に溢れており、その魅力を求め、村内外から多くの方々が村松地区周辺地域を訪れる可能性があります。しかし、当然のことながら、村松地区周辺地域は、多くの地域住民の方々が生活を営む場でもあります。

村松地区周辺地域の活性化を推進するに当たっては、村松地区周辺地域に暮らす方々が、この地域に暮らしていることに、さらに愛着と誇りを持てるように取り組むこととします。

そして、その上で、村内の他の地域に暮らす村民の方々にも、村への愛着や誇り、郷土愛を高めてもらえるように取り組むこととします。

(3) 担い手となる人材を育てる

村松地区周辺地域には、歴史、自然、科学など多様な地域資源が所在し、それらを生かした活性化に取り組む上では、地域に暮らす方々をはじめ、多くの方々にその担い手になっていただくことが重要になります。そして、一人ひとりが自分の役割を得て、やりがいを感じながら前向きに活動していただくことが重要になります。

村松地区周辺地域の活性化を推進するに当たっては、現在、村松地区周辺地域において、本計画の推進に結び付く活動に取り組む団体・組織が連携して取り組めるよう、また、地域に暮らす方々をはじめ、多くの方々が担い手となり、継続して活動いただけるよう、「人材確保」や「人材育成」を意識しながら取り組むこととします。

（４）エリアなどを超えて連携する

村松地区周辺地域は、「大神宮・虚空蔵堂エリア」、「阿漕ヶ浦公園エリア」、「細浦青畝エリア」及び「幼保跡地エリア」の４つのエリアにより構成されますが、それぞれのエリアが固有又は特徴的な地域資源を有しているため、各エリアの特徴は異なります。そのため、各エリア単位で活性化を図りながらも、他のエリアの地域資源などと有機的に結び付けることにより、より大きな効果が得られる可能性があります。

また、村は、コンパクトな面積の中に多様な文化財や自然などの地域資源を有しており、村民の方々に、より村への愛着や誇り、郷土愛を高めていただくためには、村内各所の地域資源と連携することも重要であるほか、交流人口の拡大を図る観点からは、国営ひたち海浜公園や東海駅からの「人の流れ」を意識することも重要です。

村松地区周辺地域の活性化を推進するに当たっては、村内の各地域との連携や、村外からの「人の流れ」を意識しながら取り組むこととします。

（５）情報を戦略的に発信する

村松地区周辺地域の地域資源を最大限に生かし、交流人口の拡大による賑わいの創出と、地域住民をはじめとした村民の郷土愛の醸成・高揚を推進していくためには、積極的な情報発信に取り組む必要があります。また、担い手となる人材を確保し、育成していく観点からも、地域に暮らす方々をはじめ、より多くの方々に対して、村松地区周辺地域の活性化に向けた取組内容を伝え、共感を得ていくことが重要になります。

村松地区周辺地域の活性化を推進するに当たっては、積極的な情報発信に取り組むこととし、かつ、情報発信の目的（情報発信によりどのような効果を得たいのか）、ターゲット（誰に情報を届けたいのか）、時機（どのタイミングで発信するのが効果的なのか）、手段（ターゲットに対してはどのような手段が最も有効なのか）を意識しながら、戦略的に取り組むこととします。

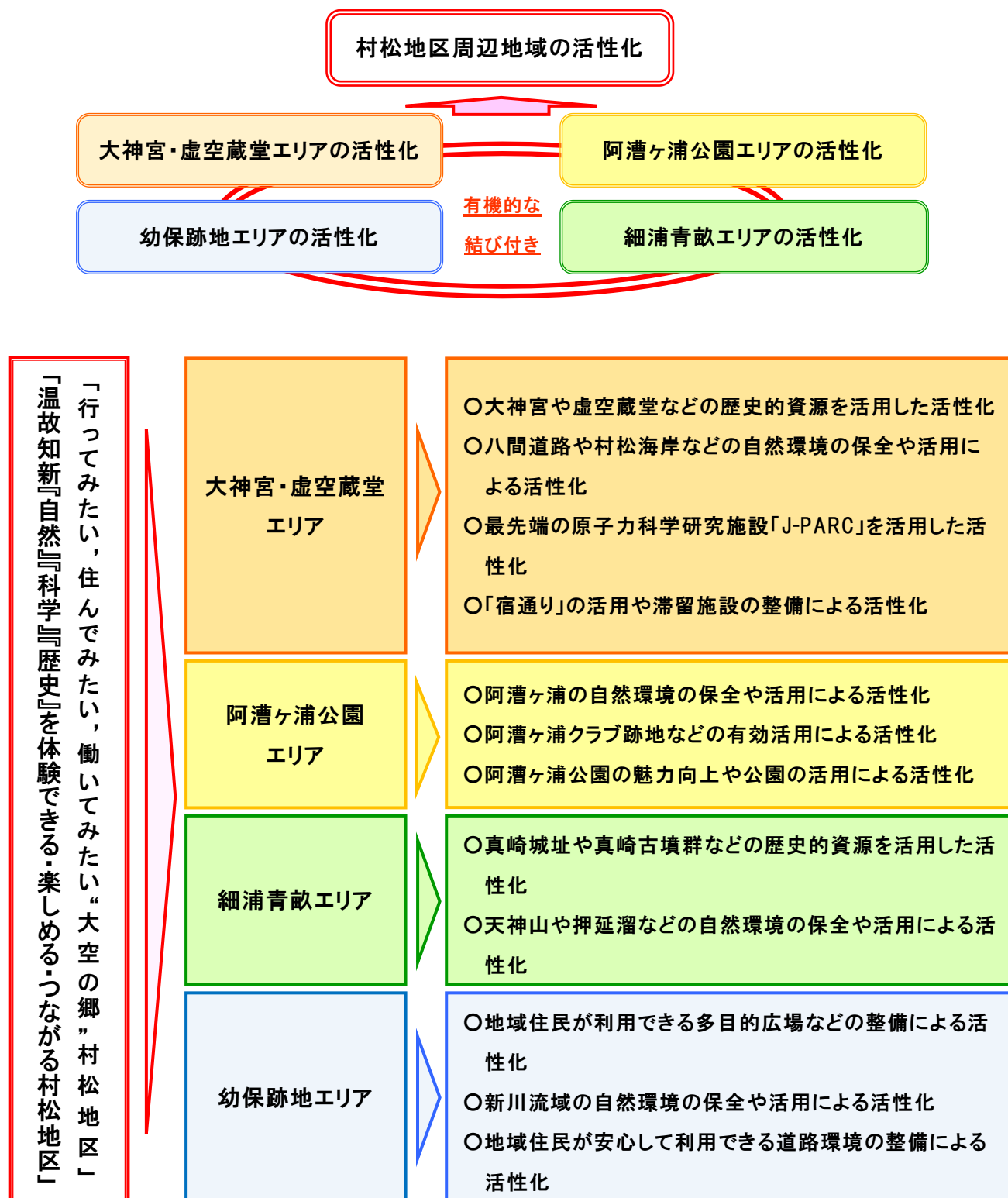
（６）目標の実現に向け、できることから始めていく

村松地区周辺地域の活性化に向けた具体的な取組内容の中には、短期的に実現できる項目もあれば、関係機関や関係者との協議・調整に多くの時間を要することが見込まれ、中長期的な視点から取り組む必要がある項目も考えられます。また、どのように財源を確保していくのかも課題です。

村松地区周辺地域の活性化を推進するに当たっては、短期的に実現可能な取組みに着実に取り組むとともに、中長期的な視点から取り組む必要がある項目についても、バックキャストिंगの思考法により、目標の実現に向け、できることから戦略的に取り組むこととします。

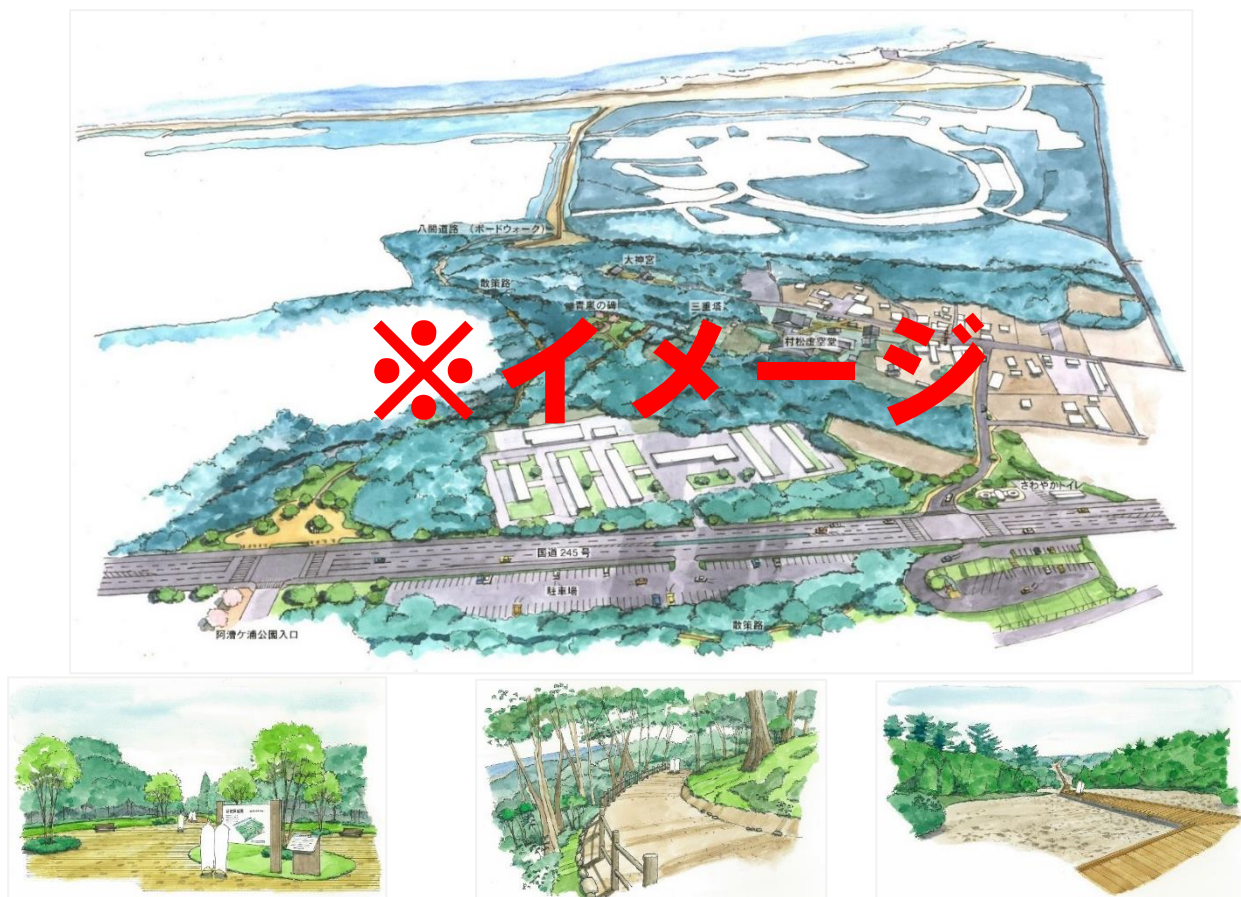
5 施策の体系

村松地区周辺地域の活性化は、「大神宮・虚空蔵堂エリア」、「阿漕ヶ浦公園エリア」、「細浦青畝エリア」及び「幼保跡地エリア」の4つのエリアにおいて、それぞれの地域資源や特性を生かした活性化が図られ、それらが有機的に結び付くことにより実現されるものとの考え方に立ち、次のとおり施策の方向性を定めることとします。



6 施策の展開

(1) 大神宮・虚空蔵堂エリア



【現状と課題】

大神宮・虚空蔵堂エリアは自然・歴史・科学の地域資源が集積する、本計画における中心的なエリアです。室町時代以降、海岸沿いの村松の地は景勝地として知られ、さらに、近世には徳川斉昭により、水戸八景の一つとして村松の村松晴嵐が選ばれるなど、村松の地の美しい自然が人々に認知されてきた歴史があります。近年においては、八間道路の砂地がスポーツ合宿などで積極的に活用されるなど、新たな魅力が創出されつつあるエリアです。一方で、現在の松林は松くい虫などによる松枯れが進み、また、スカシユリなどの固有種の姿が徐々に減りつつあり、環境保全が強く求められています。

エリア名に冠せられる大神宮・虚空蔵堂は建立から千年以上の間、東海村の移り変わりを見守ってきた歴史ある社寺です。境内では“大空マルシェ”などのイベントが開催され、村内・村外の人々の交流の場として活用される一方で、拡幅を予定している国道 245 号から奥まった場所に立地することから、交通アクセスの向上が課題となっております。駐車場や交通手段の確保はもちろんのこと、特に、八間道路方面からのアクセスを向上させることによる地域のさらなる魅力向上が期待されます。

科学面においては、海岸沿いの立地を活かして、昭和 31 年に日本原子力研究所の設置が決定し、日本で初めて原子の火が灯りました。世界最先端の研究を行う J-PARC では、ハローサイエンスや施設開放などを通じて、研究内容の公開や子ども達への科学教育振興に寄与していますが、物理的・心理的近づきやすさを高めるため、J-PARC へのアクセス道路の整備が求められています。

活性化の方針①

大神宮や虚空蔵堂などの歴史的資源を活用した活性化

[具体的な取組内容]

-
-

《参考：策定検討委員会が出された主な意見など》

東海村の始まりを学ぶことができる・修行できる・説法・説経・必勝祈願・大神宮や虚空蔵堂境内でのイベント実施・周辺市町村の寺社と連携した寺社巡り・VRやAR技術を活用した歴史（製塩の歴史等）の見える化・歴史的景観の再現・観光情報の多言語化・十三詣りなどのPR など

活性化の方針②

八間道路や村松海岸などの自然環境の保全や活用による活性化

[具体的な取組内容]

-
-

《参考：策定検討委員会が出された主な意見など》

松枯れ対策・ハマナスやスカシユリの保全・村松晴嵐の碑周辺整備・櫓の設置・八間道路の活用（白砂青松の復元）・スポーツ合宿の推進・スポーツイベントの実施・写真撮影スポット・村松海岸へのアクセス向上・阿漕ヶ浦公園からの村道整備（防災上も含む） など

活性化の方針③

最先端の原子力科学研究施設「J-PARC」を活用した活性化

[具体的な取組内容]

-
-

《参考：策定検討委員会が出された主な意見など》

原子力や科学を学べる場所・最先端の研究施設の存在をPR・外国人研究者との交流・J-PARCの活用・J-PARCアクセス道路の整備 など

活性化の方針④

「宿通り」の活用や滞留施設の整備による活性化

[具体的な取組内容]

-
-

《参考：策定検討委員会が出された主な意見など》

年間を通じた参拝客の増加・月替わりでイベント実施・空家への店舗の誘致・若手のチャレンジ支援・参道の整備・飲食ができる・土産が買える・雑貨等が買える・駐車場及びトイレの確保・インフォメーションセンター・カフェ・道の駅 など

(2) 阿漕ヶ浦公園エリア



※イメージ



【現状と課題】を挿入予定

活性化の方針①

阿漕ヶ浦の自然環境の保全や活用による活性化

[具体的な取組内容]

-
-

《参考：策定検討委員会が出された主な意見など》 ※村による公園再整備計画の内容を含む。

湖畔を周遊する散策路や横断歩道橋の設置・水辺の景観の活用 など

活性化の方針②

阿漕ヶ浦クラブ跡地などの有効活用による活性化

[具体的な取組内容]

-
-

《参考：策定検討委員会が出された主な意見など》 ※村による公園再整備計画の内容を含む。

阿漕ヶ浦公園の駐車場としての活用・カフェなどの設置 など

活性化の方針③

阿漕ヶ浦公園の魅力向上や公園の活用による活性化

[具体的な取組内容]

-
-

《参考：策定検討委員会が出された主な意見など》 ※村による公園再整備計画の内容を含む。

阿漕ヶ浦公園への進入道路の整備・ホッケー場の人口芝生化と夜間照明の設置・多目的広場や園路、遊具広場の再整備・駐車場の整備・桜並木の名所化・大神宮や虚空蔵堂への動線の確保・高校や大学のスポーツ合宿に利用しやすい環境整備・阿漕ヶ浦公園を拠点としたランニングコースの設定 など

(3) 細浦青畝エリア



【現状と課題】を挿入予定

活性化の方針①

真崎城址や真崎古墳群などの歴史的資源を活用した活性化

[具体的な取組内容]

-
-

《参考：策定検討委員会で出された主な意見など》

真崎古墳群の整備・火起こしなど古代生活の体験・歴史を学ぶ散策路やウォーキングコースの設定・真崎城を想像する“真崎城址コンテスト”の実施 など

活性化の方針②

天神山や押延溜などの自然環境の保全や活用による活性化

[具体的な取組内容]

-
-

《参考：策定検討委員会で出された主な意見など》

ホタルの生息地の環境保全・里山の保全・東海駅五反田線買収済用地の活用・天神山の眺望（山桜など）の活用・田んぼアート・子ども達が自然環境と遊べる場所・県下一低い山のPR・インスタ映えするスポットの設定 など

(4) 幼保跡地エリア



【現状と課題】を挿入予定

活性化の方針①

地域住民が利用できる多目的広場などの整備による活性化

[具体的な取組内容]

-
-

《参考：策定検討委員会が出された主な意見など》

今ある樹木を活かす・高齢者のグランドゴルフ場の確保・子どものスポーツ広場・地域住民が気軽に散歩できる場所・コミセンやこども園でのイベント時の駐車場不足・国体開催時に使える駐車場整備・正月時の駐車場利用 など

活性化の方針②

新川流域の自然環境の保全や活用による活性化

[具体的な取組内容]

-
-

《参考：策定検討委員会が出された主な意見など》

自然生物の観察・河口でのシジミ採り・川沿いの散策路・常陸那珂港区からの導線延長・川辺でのＢＢＱ・カヌー遊び等のレジャー・水の導線創出 など

活性化の方針③

地域住民が安全に利用できる道路環境の整備による活性化

[具体的な取組内容]

-
-

《参考：策定検討委員会が出された主な意見など》

安全に４車線を横断できる・園児の散歩時の安全確保・見通しの悪いクランクの解消 など

なお、現在の活動状況や将来イメージ図を挿入することも検討中

7 計画の推進にあたって

(1) 計画の推進体制

① 基本的な考え方

村松地区周辺地域の活性化に向けて、本計画を着実に推進していくためには、いかに計画の推進体制を整えるかが重要になります。

本計画の推進に当たっては、行政が主体的な役割を担いつつも、大神宮や虚空蔵堂をはじめ、地域住民の方々、地元自治会、住民団体、日本原子力研究開発機構（JAEA）、観光協会、民間事業者など、あらゆる関係機関・関係者との適切な役割分担の下、連携・協力して取り組むこととします。

② （仮称）村松地区周辺地域活性化計画庁内連絡会議

本計画を推進するに当たっては、行政において、企画、観光、商工、環境、教育、都市整備、健康、農業など、様々な政策分野が連携・調整を図りながら取り組む必要があります。そのため、庁内関係部署による「（仮称）村松地区周辺地域活性化計画庁内連絡会議」を設置し、連携・調整を図りながら本計画の推進に取り組むこととします。

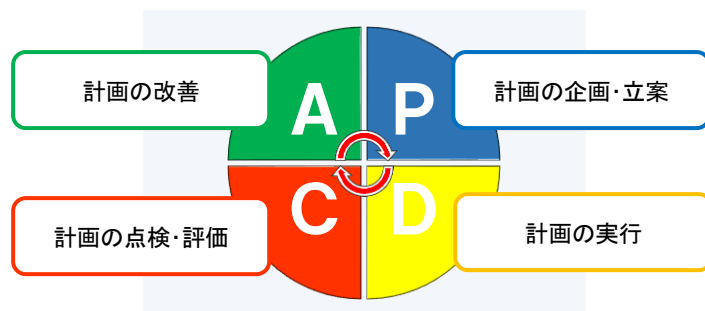
③ （仮称）村松地区周辺地域活性化計画推進会議

本計画を推進するに当たっては、大神宮や虚空蔵堂をはじめ、地域住民の方々、地元自治会、住民団体、日本原子力研究開発機構（JAEA）、観光協会、民間事業者など、あらゆる関係機関・関係者との連携・調整・情報共有が必要になります。そのため、行政、関係機関、関係者などによる「（仮称）村松地区周辺地域活性化計画推進会議」を設置し、連携・調整・情報共有を図りながら、本計画の推進に取り組むこととします。

(2) 計画の進行管理

本計画を着実に推進していくためには、各施策を計画的に実施するとともに、「計画（Plan）・実施（Do）・点検評価（Check）・改善（Act）」のPDCAサイクルにより進行を管理する必要があります。

本計画の推進に当たっては、（仮称）村松地区周辺地域活性化計画庁内連絡会議などの庁内会議や、（仮称）村松地区周辺地域活性化計画推進会議に適時諮りながら、適切に進行を管理していくこととします。



8 資料編

(1) 東海村（仮称）村松地区周辺地域活性化計画策定検討委員会委員

氏 名	所属など
小原 規宏	茨城大学 人文社会科学部 現代社会学科 准教授
久賀 幸夫	宿区自治会 代表
川亦 洋子	宿区自治会 代表
坪 陽一	真崎区自治会 代表
安尾 清志	真崎区自治会 代表
荒木田 泰宗	大神宮 代表役員 宮司
原 智生	虚空蔵堂 副住職
井坂 文明	東海村観光協会 代表
川崎 敏秀	東海村商工会 理事
宇野澤 治	東海村旅館組合 組合長
藤田 甲樹	国立研究開発法人 日本原子力研究開発機構 総務部 次長
川崎 道隆	公募委員
鈴木 さちよ	ハーモニー東海第 12 期生
鈴木 千佳	ハーモニー東海第 12 期生

(順不同・敬称略)

(2) (仮称) 村松地区周辺地域活性化計画の策定検討経過

① 策定検討委員会

回	期日	主な議題
第1回	平成28年9月2日	○東海村（仮称）村松地区周辺地域活性化計画策定の概要について ○今後のスケジュールについて
第2回	平成28年11月30日	○村松地区（全体）のにぎわいづくりについて
第3回	平成29年2月10日	○東海村（仮称）村松地区周辺地域活性化計画のコンセプトについて
第4回	平成29年3月28日	○村松地区周辺における東海村の取組みについて
第5回	平成29年4月27日	○村松周辺エリアにおける短期的取組みについて
第6回	平成29年6月27日	○村松周辺エリアにおける取組みの確認について
第7回	平成29年9月1日	○幼保跡地エリアにおける取組みについて
第8回	平成29年11月14日	○村松周辺エリアにおける軸の考え方について ○計画体系イメージについて
第9回	平成30年1月22日	○国体を活用した村松周辺エリアの活性化について ○計画策定スケジュールについて
第10回	平成30年2月16日	○細浦青畝エリアの取組みについて
第11回	平成30年3月22日	○中間報告（案）について

以降、策定委員会の開催経過を追記予定。
また、会議や現地見学の様子を示す写真を挿入予定。

② 行政・村議会・地域

期 日	会議等	内 容
平成30年3月28日	政策会議	中間報告（案）について

この他、政策会議や庁議、議会説明、地元説明などの経過を記載予定。

(3) 東海村（仮称）村松地区周辺地域活性化計画策定検討委員会設置要綱

東海村（仮称）村松地区周辺地域活性化計画策定検討委員会設置要綱

平成28年7月1日
告示第100号

(設置)

第1条 (仮称)村松地区周辺地域活性化計画(以下「活性化計画」という。)の策定を検討するに当たり、広く関係者から意見を聴取するため、東海村（仮称）村松地区周辺地域活性化計画策定委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(所掌事務)

第2条 委員会は、次に掲げる事項について検討するものとする。

- (1) 活性化計画の策定に関すること。
- (2) その他村長が必要と認める事項に関すること。

(組織)

第3条 委員会は、委員15名以内をもって組織し、次に掲げる者のうちから村長が委嘱する。

- (1) 宿区自治会及び真崎区自治会の推薦する者
- (2) 一般公募による住民
- (3) 大神宮
- (4) 虚空蔵堂
- (5) 東海村観光協会
- (6) 東海村商工会
- (7) 東海村旅館組合
- (8) 国立研究開発法人日本原子力研究開発機構
- (9) その他村長が適当と認める者

(任期)

第4条 委員の任期は、委嘱の日から活性化計画が策定された日までとする。ただし、その職により委嘱された委員の任期は、その職にある期間とする。

2 前項の規定にかかわらず、委員が欠けた場合における補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長及び副委員長)

第5条 委員会に、委員長及び副委員長1人を置き、委員の互選によりこれを定める。

2 委員長は、委員会を代表し、会務を総理する。

3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるとき又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 委員会の会議(以下「会議」という。)は、必要に応じて委員長が招集し、委員長が会議の議長となる。

2 会議は、委員の過半数の出席がなければ開くことができない。

3 会議の議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

4 会議において、必要があると認めるときは、会議に関係者の出席を求め、説明又は意見を聴くことができる。

(庶務)

第7条 委員会の庶務は、企画経営課及び都市整備課において処理する。

(補則)

第8条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が委員会に諮って別に定める。

附 則

(施行期日)

1 この告示は、公布の日から施行する。

(有効期限)

2 この告示は、活性化計画が策定された日をもって、その効力を失う。

(4) 用語解説

No.	用 語	解 説

東海村(仮称)村松地区周辺地域活性化計画

平成〇〇年〇月発行



東 海 村